

2017年
広報よこはま
鶴見区版9月号

毎月1日発行

つるみ

Tsurumi

2017 9

No.239

9月のヨミドコロ



今月の区版は、10月1日に区制90年を迎える鶴見区の歴史を、年表やその時代を駆け抜けてきた区民のお話で振り返ります。かつての鶴見の街並みや人々の生活、そして出来事。そこにはあなたが知らない鶴見があるかもしれません。



鶴見区ツイッター
区内イベント情報を発信中。ぜひフォローください!

ワクワクつるみ! 90周年祭



【メイン会場】◎鶴見駅西口ショッピングモール ◎鶴見駅東口 ◎サルビアホール ◎鶴見公会堂 ◎鶴見国際交流ラウンジ
【サテライト会場】◎豊岡小学校 ◎大本山總持寺 ◎鶴見区役所[イベント]9月25日(月)~29日(金)

メリーゴーランド

未来龍の凧あげ

9/30^土
10/1^日



エイサー



電飾人間



キリコ



ガラガラぶんぶん



輪唱の

横浜市コールセンター ☎ 664-2525 664-2828

今年10月1日、鶴見区は区制90年を迎えます。それを記念し、区ではさまざまな催しを企画しています。中でも前日と当日に鶴見駅周辺で催される90周年祭では、各種パレードをはじめ、メリーゴーランドや光のワークショップ、寄席や子ども向け映画上映会など、大人も子どもも楽しめるイベントが盛りだくさん! さらに2日間を通して、常設のオープンカフェやうまいもの市も登場します。鶴見区90歳の誕生日をみんなで祝い、新しい鶴見の魅力を発見してください。



鶴見区長 征矢雅和

つるみと私

～鶴見区史90年を振り返る～

90年という長い歴史には、さまざまな出来事があり、その間に鶴見の街も人も生活も大きく変わりました。そんな激動の時代を鶴見とともに過ごした人々の話を通し、当時の暮らしや時世を振り返ります。(記事は8・9ページ)



詳細は8・9ページへ

横浜市に区ができて90年。5区そろってお祝いしよう!



鶴見区



神奈川県



中区



保土ヶ谷区



磯子区

鶴見区役所は、第2・4土曜日(9時~12時)に戸籍課・保険年金課・子ども家庭支援課の一部業務を行っています
横浜市鶴見区役所 〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央3-20-1 ☎ 510-1818(代表番号)

鶴見区のおいま 人口▶288,596
(29年8月1日現在) 世帯数▶135,907

特集

つるみと私

～鶴見区史90年を振り返る～

昭和初期から平成までの90年間。その長い歴史には、さまざまな出来事があり、その間に鶴見の街人も生活も大きく変わりました。そんな激動の時代を鶴見とともに過ごしてきた3人に、当時の暮らしや文化、そして思い出などを伺い、鶴見の90年の歴史を振り返ります。



昭和	2年(1927)	鶴見町旭村が横浜市に合併	鶴見区が誕生(人口6万2446人)	市電子安線「生麦」金港橋間が開通	鶴見線が国有化	川崎大空襲(4月15日)横浜大空襲(5月25日)	児童遊園地「花月園」が開園	花月園競輪場が開場	鶴見工業高校が夏の甲子園に初出場	三ツ池公園が開園	横浜市が政令指定都市に指定	第二京浜国道が全通	狩野川台風で鶴見川が氾濫	国鉄鶴見事故(死者161人)	市電生麦線が廃止	大黒大橋が開通	獅子ヶ谷市民の森が開園	区制50周年(人口23万7678人)	鶴見図書館が開館	鶴見公会堂が開館	区制60周年(人口24万3751人)	鶴見区総合庁舎が完成	区制70周年(人口25万883人)	高齢者保養施設「ふれいゆ」が開館	大黒海釣り公園が開園	高速湾岸線(鶴見つばさ橋)が開通	ワイルドブルーヨハマがオープン	区の花に「サルビア」が決定	鶴見区のシンボルマークが制定	大黒ふ頭の埋立てが完成	ベイブリッジスカイウォークが完成	横溝屋敷が市指定文化財第1号に指定	鶴見区のマスコット「ワックン」が制定	平成	元年(1989)	区制80周年(人口26万7447人)	国道357号線が開通	理化学研究所「横浜研究所」が発足	馬場花木園が開園	区の木に「サルスベリ」が決定	鶴見駅ビル「シアル鶴見」が開業	鶴見国際交流ラウンジが開館	花月園競輪場が開園	横濱サイエンスフロンティア高校が開校	「つるみやげ」選定	区制90周年(人口28万8998人)	横濱北線が開通し、岸谷生麦線が利用開始	白井健三選手 鶴見出身リリオ五輪で金メダル獲得	鶴見駅東口駅前広場の整備が完了	二ツ池公園が一部整備され公開	29年(2017)	区制90周年(人口28万8998人)
----	----------	--------------	-------------------	------------------	---------	--------------------------	---------------	-----------	------------------	----------	---------------	-----------	--------------	----------------	----------	---------	-------------	--------------------	----------	----------	--------------------	------------	-------------------	------------------	------------	------------------	-----------------	---------------	----------------	-------------	------------------	-------------------	--------------------	----	----------	--------------------	------------	------------------	----------	----------------	-----------------	---------------	-----------	--------------------	-----------	--------------------	---------------------	-------------------------	-----------------	----------------	-----------	--------------------

【鶴見区90年の歩み】

佃野

街頭テレビに映画館、商店街にはいつも人々が集っていた ～石原修二さん(77歳)～

森永工場への爆弾投下で商店街は壊滅状態に

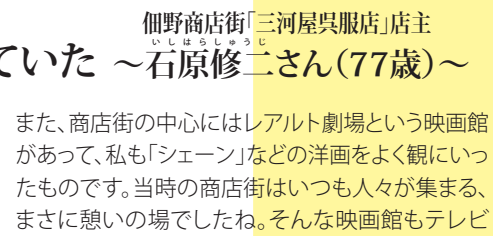
親父が呉服屋を佃野商店街で始めたのが、戦前の昭和7年。そこで私も生まれましたが、幼少期に戦争になったことで一旦は名古屋に疎開し、鶴見に戻ってきたのは小学生の時でした。特に戦火では、すぐ横にあった森永工場が集中的に爆撃を受けたことで、そのあおりを受け商店街はほぼ壊滅状態でした。

それでも親父は佃野に戻ると、そこでまた一から店舗を建てて、商売を始めました。ただ、戦後間もなくはまだ物資がないため、食品も衣類も買うには配給用の券が必要でね。うちの店にも衣服を求めて、券を持った人が列をなして並んでいたのを覚えています。

街頭テレビに人が群がり、映画館は憩いの場だった

30年代頃からは商店街も活気を取り戻し、年末などは買い物客で身動きできないほど賑わいました。当時はまだ商店街の道も舗装されておらず、人が大勢通ると砂ぼこりが舞ってね。そんな商店街の道の真ん中をバスが通っていたんですから、今では考えられない光景ですね。それと当時は店のすぐ横に街頭テレビが設置され、プロレス中継などを観に多くの人だけりができていました。

2代にわたりこの地で85年、呉服店を営んできた石原さん

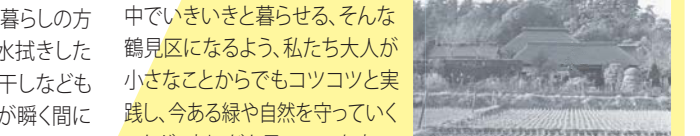
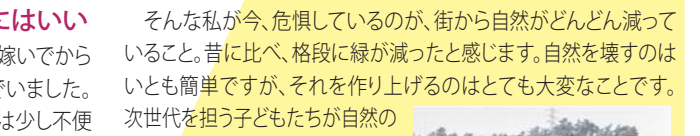
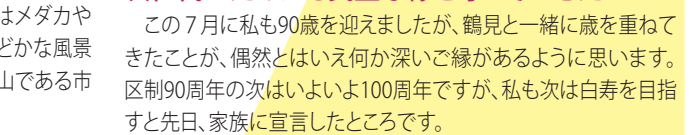
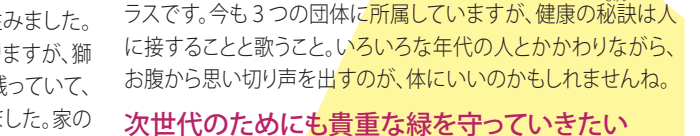
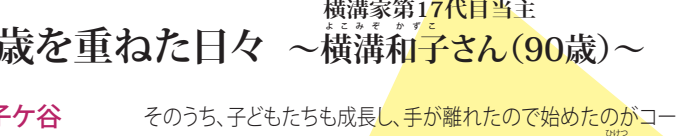


また、商店街の中心にはレアルト劇場という映画館があって、私も「シェーン」などの洋画をよく観にいったものです。当時の商店街はいつも人々が集まる、まさに憩いの場でしたね。そんな映画館もテレビの普及などで次第に客足が遠のき、その後はストリップ劇場に姿を変えてね。そこの踊り子さんたちが、よくうちに衣類を買いに来ていましたよ。ちなみに、「レアルつくの」という今の愛称は、当時のレアルト劇場にちなんだものとも聞いています。

将来的にまた商店街にも賑わいが戻ってくれたら

今こうして商店街を眺めても、辞めた店や代わった店も多く、うちの店が一番古株になってしまった。店主の高齢化が進む中、それは仕方ないことですが、どういう形であれ、また商店街にかつての賑わいが戻ってくれたらと思います。

鶴見区もあと10年で100歳を迎えますが、それまでに商店街もまた元気を取り戻し、次の100周年を一緒に祝えたらいいですね。



前が一面田んぼだった横溝屋敷(昭和30年代)



生麦

あの「事件」も「事故」も私の一部。生麦とともに歩んだ人生 ～浅海武夫さん(86歳)～

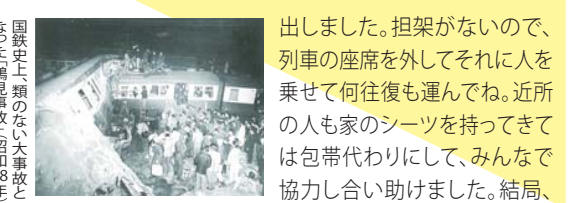
棒手振りさんが行き交ったかつての生麦

私が生まれたのが、鶴見区が誕生して3年後の昭和5年。生まれも育ちも生麦なので、生粋の鶴見っ子ですね。生麦といえば魚河岸が有名ですが、戦前はまだ漁師町で主に赤貝、ミル貝などがとれたことで、それを桶に入れ天びん棒で担ぎ、山側まで売りに行く棒手振りさんが行き交っていました。その人たちが休憩した場所が、今も佃野商店街にほてふり地蔵として残っています。

実家が酒屋だったこともあり、学生時代から店の手伝いをしていましたが、そのまま店を継ぐのには抵抗があっただけ。歴史が好きだったこともあり、大学卒業後に再度、別の大学へ入学し、日本の近代史を学びました。当時は、それが後に生麦事件をひも解く自身のライフワークにつながることは、まだ知るよしもなかったですが。

忘れられない「鶴見事故」の一夜

その後、店を継ぎ、33歳のときに結婚しましたが、その年の11月にあの大事故が起きたんです。死者161人を出した国鉄の鶴見事故です。私はその夜、いつものように店番をしていましたが、何か騒がしいので外へ出てみると、目と鼻の先で電車が脱線したらしい。急いで現場に行くと、そこには大破した車両とともに、足を挟まれて泣き叫ぶ人、宙ぶらりんで意識のない人、それはもう地獄絵図のようでした。その場にいた私も駆け出され、乗客を車外へ運び



国鉄史上類のない大事故となった鶴見事故(昭和38年)

「生麦事件」を風化させず、後世に伝えるのが使命

もう一つ、生麦とあって欠かせないのが、生麦事件です。私がこれに携わるきっかけとなったのが、たまたま事件碑を案内した鹿児島の人から、後日届いた一通の手紙でした。そこには、「なぜこんな大きな事件なのに資料館がないのか?」と書かれていました。以来、私は歴史好きということもあり、国内はもとよりイギリスやオランダからも資料を集め、事件について調べ尽くしました。そして、平成6年に生麦事件参考館を自宅横に開館。以後、全国からたくさんの方がここを訪れ、多くの人に事件のことを知ってもらっています。今後この参考館を通し、生麦事件を風化させずに一人でも多くの人に事実を知ってもらおう。それこそが私の使命であり、地元、生麦への恩返しだと思っています。



獅子ヶ谷

移りゆく自然を感じ、鶴見とともに歳を重ねた日々 ～横溝和子さん(90歳)～

手つかずの自然が残っていたかつての獅子ヶ谷

生まれは東京ですが、結婚をして獅子ヶ谷に移り住みました。鶴見というと古くから市街化されているイメージがありますが、獅子ヶ谷あたりは昭和30年代頃まで手つかずの自然が残っていて、夜になるとカエルの合唱がうるさいほど鳴り響いていました。家の前には稲穂がそよぐ田んぼが一面に広がり、その脇にはメダカやミズスマシが泳ぐきれいな小川が流れている。そんなのどかな風景も、街の都市化とともに徐々に消えていき、今は家の裏山である市民の森が唯一手つかずの自然となってしまいました。

便利過ぎず手間のかかる暮らしの方が体にはいい

現在、市の指定文化財である横溝屋敷には、横溝家に嫁いでから市に寄贈する昭和の終わり頃まで、私たち家族が住んでいました。かやぶき屋根に土間といった昔ながらの家屋での生活は少し不便さもありましたが、今思うと便利過ぎず少し手間のかかる暮らしの方が実は体にはいいのかなと。当時は、長い廊下を毎日水拭きしたり、窓ガラスを拭いたり、障子の張り替えや畳のひなた干しなどもすべて家族でやるというのが当たり前でしたから、一日が瞬間に過ぎる毎日で、余暇を楽しむ余裕などありませんでした。

そのうち、子どもたちも成長し、手が離れたので始めたのがコーラスです。今も3つの団体に所属していますが、健康の秘訣は人に接することと歌うこと。いろいろな年代の人とかかわりながら、お腹から思い切り声を出すのが、体にいいのかもしれない。

次世代のためにも貴重な緑を守っていききたい

この7月に私も90歳を迎えましたが、鶴見と一緒に歳を重ねてきたことが、偶然とはいえ何か深い縁があるように思います。区制90周年の次はいよいよ100周年ですが、私も次は白寿を目指すので先日、家族に宣言したところです。

そんな私が今、危惧しているのが、街から自然がどんどん減っていること。昔に比べ、格段に緑が減ったと感じます。自然を壊すのはとても簡単ですが、それを作り上げるのはとても大変なことです。次世代を担う子どもたちが自然の中でいきいきと暮らせる。そんな鶴見区になるよう、私たち大人が小さなことからコツコツと実践し、今ある緑や自然を守っていくことが、大切だと思っています。



前が一面田んぼだった横溝屋敷(昭和30年代)

来館者には生麦事件について丁寧に説明してくれる浅海館長(要予約) 【生麦事件参考館 ☎503-3710】